

西

敏

村

雄



1964年生まれ。インテリアのテキスタイルを中心にデザイナーとして活躍した後、2001年より絵本の創作を始める。「バルバルさん」(第3回書店員が選ぶ絵本大賞)で絵本デビューしてからは、数多くの絵本を出版。



『岩瀬文庫と本のこと』

西尾で生まれ育った僕にとって岩瀬文庫にはいろいろな思い出があります。子供の頃は本当によく行っていました。昔の岩瀬文庫の古い建物の周りには、たくさん木が生えていて、夏にはカブトムシやクワガタムシなどの虫取りをしました。それから、ブランコや滑り台、砂場で遊んだり、広場の真ん中に鉄の柵で囲まれた小屋があって猿を何匹も飼っていたので、猿の親子を飽きずに眺めていたり。中学生の頃には図書館の自習室で課題や受験勉強もしました。

高校を卒業してデザインを学ぶため東京に出て来ましたが、大学の先生と話をしている、僕が「愛知県の西尾市の出身」と知ると「西尾市には岩瀬文庫があるよね。あそこはとても貴重な本をたくさん持っているよ!」と先生が少し興奮した様子でおっしゃいました。その後、僕が大学を出てテキスタイルのデザイナーをしていたとき、先生から依頼され岩瀬文庫がコレクションしている「戦国時代から江戸時代の合戦で使用した軍旗や飾り物(旗指物)の意匠(デザイン)に関する資料」を学芸員の方をお願いして複写させていただきました。実際に三百年くらい前のいくつかの蔵書を拝見して、その本自体に「時代を経た物の存在感」を感じたことを思い出します。

僕たちが若かったころは、知識や教養を得るには本や雑誌を読むことくらいしかありませんでした。美術やデザイン、ファッションや音楽、映画など自分が興味を持った分野の本や雑誌を見たり読んだりして、自分は将来、どんな仕事をしてどんな生活がしたいのかをいろいろ考えたり夢見たりしていました。

現在はインターネットで検索すると簡単にテキストや画像、映像をすぐに見ることが出来る とても便利な時代ですが、今でも本は僕にとって大切な物です。

デザインの仕事を経て絵本を作ることが僕の仕事になりましたが、これからも子供さんたちに長く楽しんでいただける絵本を丁寧に作っていければと思っています。

最後に「にしお本まつり」は今年も残念ながらコロナ禍のためリモートでの開催とお聞きしました。以前、本まつりに伺った時は古書や地元ゆかりの作家さんの本を販売されたり、イベントなどもあって大変盛況でした。来年はコロナが収束して賑やかに「にしお本まつり」が開催されることを願っております。



西村敏雄

「くまパン」
あかね書房